
星日和

さくらこ

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

星日和

【Nコード】

N3305P

【作者名】

さくらこ

【あらすじ】

内気で地味な心と、
野球少年健の

不器用な恋モノガタリ。

One！（前書き）

作品を読む前に！

この物語は、作者の妄想の塊であり
不快に思うことがあるかもしれません。
そして、文章がぐっちゃぐちゃです。

それが嫌な方は読む前に引き返すことをお勧めします。

One!

私、たなかこころ田中心。

はつきり言つて地味。

瓶底眼鏡にお下げの髪。

そんな私でも好きな人がいる。

——…その人は佐伯さえきけん健君。

佐伯君は親友の梓音しおんと同じクラス。

佐伯君を始めてみたのは5月のある日の事。

皆、部活が決まって部室に向かおうとしているその時間。

帰宅部の私は、茶道部に入ってる梓音を待っていた。

キンコンカーンコン…

部活動終了のチャイムが鳴り、梓音を迎えに行こうと私は席を立った。

階段を降り、その角を曲がれば茶道部の部室というその時…

ドンッ！

「きゃっ！」

『「うめんなさいー！」』

『ごめんな、怪我しなかったか?』

「あ…はい、大丈夫です…貴方は大丈夫ですか?」

『ああ、大丈夫だよ。…っとゴメン、部活の集まりがあるからいくな。』

また後日謝らせて?』

「…はい／＼」

『じゃあ!』

そういつて、颯爽と走って行く彼の背中を、私は見えなくなるまでずっと見ていた――。

T W O !

茶道部の部室の前で座ったままボーツとしていたため、

茶道部部室から出てきた人に怪訝そうな顔をされ、我に返った。

あの人、名前聞きそびれちゃったな・・

ユニフォームから言って野球部の人だったな。

私は内気で友達が少ないけど、親友の梓音は明るく友達が多い。
梓音が出てきたら聞いてみよう。

……

少しして、梓音が出てきた。

『やほーう！心、待った？』

「ううん、今来たところ。」

『そっか！じゃあ帰ろー。』

んー、いつ言おう…。

いきなり聞くのも恥ずかしいしな・・。

でも、聞かないと！

「ねえ、梓音。」

『んー？何ー？』

「んつと、野球部で身長は172、3くらいかな？
で、すつごく爽やかそうな人知ってる？」

『んー・・・？ちよつと待ってねー。……あ！知ってるも何も同じ
クラスにいるわ！

佐伯健でしょ？それがどうかした？』

「佐伯、健君……。えつとね……」

私はさっきあつた事を梓音に話した。

『へー。何？心好きになつたの？アイツの事！』

「た、多分？／＼／」

『もー！可愛いなあ！ま、でもアイツはモテるからね、頑張りなよ
く？』

「う。が、頑張ります」

そういつている間にも家に着いた。

『「じゃーねー」』

「ただいま」

家に帰っても、お風呂に入っても、ご飯を食べてても、考えるのは佐伯君の事ばかり。

今度謝る、そう言ってたけど私はどうすればいいのかな？

そう考えながら眠りについた――。

Three!

▼健side

昨日、ある女の子とぶつかった。

申し訳ない気持ちで顔を上げると、

瓶底眼鏡とおさげという、言ってしまうえば凄く地味な格好。
でも、なぜだか気になる。

気がついた時には話しかけていた。

「ゴメンな！」

後日、お詫びをすると言ったものの、
名前も、クラスも分からない。

そして、あの子が何を好きなのか…。

真剣に考えても、分からなくなる一方で。

だったらいつそ、じぶんの好きな事を体験してもらおう！

そう考えた僕は、彼女を探しに他のクラスをまわる事にした。

1組から順番にまわっていったら、割とすぐ見つかった。

僕のクラスの隣の4組にいたのだ。

(健は3組)

同じ部活仲間の堺に彼女を呼んでもらった。
彼女と人気ひとけの無い場所に行き、話しかけた。

『あのさ…この前ぶつかったお詫びといってはなんだけど、
今度の土曜日出掛けない？一緒にさ。』

彼女は少し考える仕草をした後、
ゆっくりと口を開いた――。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3305p/>

星日和

2010年12月6日04時02分発行